

4月刊 四万十町

月号 地域おこし協力隊 だより

2024
April

📍 窪川（本庁）
🏠 移住定住支援業務

四万十町ダーツの旅

岩崎 姫無
Iwasaki Himena



この四月で、四万十町に移住して一年が経ちます。長い人生のたった一年間ですが、たくさんの方とご縁があり、とても濃い一年間でした。「東京から移住してきました！」という「なんでこんな何もないところにな」と聞かれますが、都会にはないものが四万十町にはたくさんあります。山も川も海も温かい人も食もお酒も文化もとても居心地のいい環境で感謝しています。地域おこし協力隊としての活動では、四万十町の魅力の新発見と温かい町民性をアピールするため「姫無がゆく」企画を開始しました！ダーツの矢がさした場所を訪れ、町民の方にお話を聞き地域の魅力を動画にし、四万



一斗表沈下橋



姫無がゆく

高知県四万十町
奈路地区

「姫無がゆく」企画

十町地域おこし協力隊のYouTubeに投稿しています。床鍋地区、大正地区、広瀬地区と周り、先日は奈路地区に行ってきました。ここでは、「カフェ&キッチン空詩土」にお邪魔し、お話を聞きました。店主のご夫婦は笑顔が素敵で、店内もまるで童話に出てきそうな、すぐ落ち着く空間です。四万十町の「人」にフォーカスするこの企画で、四万十町の魅力を発信していきたいと思っています。最近は一人で飲み歩くようになったり、だんだんお酒が強くなってきた感じがしています。地域おこし協力隊二年目も、たくさんのご縁を大切にして楽しみます！



横田 岳夫
Yokota Takeo

二年目を振り返って

📍 窪川（本庁）
🏠 新規就農支援

いよいよ協力隊としての活動期間も最終年となりました。この一年間も残すことが無いよう、全力で突っ走っていきたいと思います！二年目も濃く充実した日々を過ごせました。毎日が楽しい。学びも多くてアタマがパンパンですが笑。町内の認定新規就農者の交流の促進を目的に、気象に関する理解を深めるための「農業に役立つ気象情報」と直販のノウハウについて学ぶ「農家直販講座」のテーマで二回にわたって交流会を実施しました。農業における気象の影響をより具体的に把握し、生産計画や防災対策に生かすことが出来る内容だった気象の回と、直販のメリッ



セミナーの様子



初節句

が地域の農産物のマーケティング内容だった直販の回といずれの回も情報やアイデアの共有などで参加者の方々の交流が深まったと思います。就農に向けた取り組みとしては、田植えから稲刈り・秋耕まで一連の作業を通じ、水稲栽培の流れを学ぶことが出来ました。できたお米のあまりの美味しさについて食べ過ぎて体がどんどん横に横に成長しているような笑。プライベートでは昨年長女が生まれました。この素晴らしい環境の中で長男ともども生きる力の強い子に育って欲しいと願っています。日々楽しく暮らせていることに感謝しながら、私自身家族とともに成長していきたいと思っています。



藤田 健吾
Fujita Kengo

新たな作物の栽培に向けて

十和地域振興局

中山間地域の地域営農支援の推進

いよいよ春本番。三月三十一日にリニューアルオープンした三島キャンプ場では、菜花がきれいに咲いています。四万十川のせせらぎと菜花の香り、ゆったりとした雰囲気にと癒されながらキャンプができます。ぜひ十和に遊びに来てください。厳しい冬が明け、春の清々しい気持ちとは裏腹にコメの育苗やゆづの剪定が始まり、慌ただしくなりますが、私はワクワクしてきます。ところで、皆さんムクナ豆という作物をご存知でしょうか。ムクナ豆とは、「リードーナミン」と呼ばれるストレスの緩和、疲労軽減、パーキンソン症状の緩和、うつ症状の改善に役立つといわれる作用を持った成分が多く含まれる豆です。樹勢が非常に強く、荒れた農地で無肥料でも栽培できるのが特徴です。日本でも江戸時代まで栽培記録があり、食用として日本でも認可されています。ムクナ豆は、暖地でのみ栽培でき現在では、熊本と和歌山で九十パーセントが栽培されています。単価が高くつる性の植物という点もあり、斜面がきつく棚田が多くある十和地域の農地を生かした栽培ができるのではと考えています。このムクナ豆を耕作が難しくなった農地で栽培し、粉末や味噌などに加工、販売ができれば、新たな高収益作物として栽培され、四万十町の新たな特産品になるのではと考えています。



三島キャンプ場の菜花



ムクナ豆

大正地域振興局

大正商店街のにぎわいづくり

これからも大正で

田中 大夢
Tanaka Hiromu



田舎暮らしをしてみたいと思って、四万十町の地域おこし協力隊になって二年足らず。振り返ってみると、たくさんの方のイベントや地域活動のお手伝いをさせていただきました。各地域のお祭り、マルシェイベント、ひなまつり、子ども食堂など、大正だけでもこんなにあるのだと驚きました。それを通じて多くの人と知り合うことができ、その繋がりがから一緒に食事やスポーツ、川魚をしたりと、地域や人の温かみを感じながら、公私共に楽しく過ごすことができました。正直もったのんびりと、田舎暮らしをできると思っていました(笑)最近では趣味の延長でコーヒードリンク(気ままに珈琲)をひっそりオープンしたり、ま



連絡通路を美術館風に



じんじゃ食堂での出店

だ出来ていませんが狩猟免許を取得したので、これからやるうと考えると、毎日忙しく充実しています。色々挑戦しているうちに、今後はコーヒードリンクと薬剤師を軸に、四万十町で暮らしていきたいと考えて、協力隊を早めに退任させていただくことになりました。大正では自分のお店やパン屋に食堂など、お店を始める人が出てきたり、予土線アートプロジェクトで土佐大正駅の連絡通路が明るくなったりと、新しい風が吹いて来ています。協力隊退任後も大正に残り、皆さんと一緒に大正を盛り上げていけたらと思っています。今後もうぞよろしくお願いたします。

地域おこし協力隊 クイズQ

Q1. 現在、四万十町の地域おこし協力隊の人数は何人でしょう?

- A. 6人 B. 18人 C. 32人

Q2. 地域おこし協力隊の任期は最大何年間でしょう?

- A. 3年間 B. 6年間 C. 8年間

facebook



大正駅前になぎわい拠点



協力隊のホームページ



instagram



四万十町役場 にぎわい創出課

Tel: 0880-22-3281

Mail: 103050@town.shimanto.lg.jp

Address: 四万十町琴平町 16番 17号 (西庁舎 2F)